



八木 修

一、幸福とは何か 二、東日本大震災や原発事故を受けて

問 町長が今年度の町政運営方針で述べた、幸福とは何かを命題として取り組むということなので、その定義を確認する。

答 戦後高度成長で物質的な豊かさを享受してきた事は評価しなければならぬが、一方で心の豊かさが失われていった。その解決が幸福論だと思っている。

問 今回東日本大震災や福島原発事故で国民は今の暮らしのあり方を見直さなければと感じ、また地域のコミュニティの大切さを再認識させられた。そしてその核になっているのは地域の学校だった。能勢町も避難所のほとんどが各校区の学校に指定されている。避難所の収容人数はどれくらいか。

答 (担当部長) 避難所の想定はしているが定員の数までは整理していない。

問 手元の防災計画に書

いてあるではないか。知らないとは情けない。合計2038人だ。その避難所に緊急の食料や物資などがおいてあるのか。

答 (担当部長) 置いておりません。

問 今回の震災を受け文科省は、学校が避難所として地域の防災拠点としても機能したことを踏まえ、各校に貯水槽、備蓄倉庫、トイレ、自家発電などを整備するべきだとしたが。

答 能勢町は安全な町だ。私の言うことがうそだとお思いになったなら、一度大きな地震が来たらよくわかると思います。

問 能勢町が安全な町かどうか議論する気はないが、防災計画の見直しを検討すべきだ。そこで絶対安全といわれていた原子力発電所で事故が起きた。今後のエネルギー政策をどう考えるか。

答 こういう機会に原発のあり方をもう一度再点検するとともに、代替エネルギーを日本の技術の英知を結集して、環境立国になるべきだと思う。

問 町長が町政運営方針で引用したブータンの幸福度の考え方とは、私は生きていることが幸せと思える社会は、物質的な豊かさではなく心理的に支えあえる社会だと考える。町長も幸福論を命題にするなら、そのことをスローガンにし、例えば健康寿命日本一をめざし、施策の柱にすれば、能勢町で住めば安心できるという町にしてはどうか。

答 能勢町に対する思いは人一倍持っている。リーダーシップを発揮していくいひつぱっていく。批判があるだろうが、物は事はやらなければ次の段階を迎えられない。芯はきつちりしたものを持っているし、それなりの柔軟性も持っている。

問 能勢町が安全な町かどうか議論する気はないが、防災計画の見直しを検討すべきだ。そこで絶対安全といわれていた原子力発電所で事故が起きた。今後のエネルギー政策をどう考えるか。

浄るり月間

すじょうるり

能勢では200年前から語りと三味線からなる“素浄瑠璃”が盛んで、【おやし制】と呼ばれる他には類を見ない継承方式が現在も続いており、地域の文化として、多くの人に親しまれ愛されています。これまでの功績が認められ1999年に<能勢の浄瑠璃>として国の無形民俗文化財にも選択されています。

浄るりシアターがオープンして5年目の1998年には“素浄瑠璃”の発展継承と、それを活かした創造活動を進めるため、人形と囃子を加えた人形浄瑠璃として始動し、毎年6月の定期公演と町内外からの年間30を超える依頼公演に向けて日々稽古に励んでいます。2006年10月には町制施行50周年を機に<能勢人形浄瑠璃鹿角座>と名称を改め、今年5周年を迎えることとなりました。



しょうつしあさがおはなし おおいがわ だん
生写朝顔話 - 大井川の段 -

また、9月17日午後6時30分より久佐々神社において【浄瑠璃の里 能勢浄瑠璃公演】として実施されます。天候不良の場合は、翌日の公演となります。翌日も天候不良の場合は中止となります。